

## 丘にある砦から城へ

現在の姫路城は 17 世紀前半に建造されたが、この場所には 14 世紀中頃から要塞が存在した。地元の武将であった赤松貞則(1306–1374)が、姫路平野を見渡す小さな丘だったところに簡単な砦を建てたのが最初であったと信じられている。それから 2 世紀以上経ってから豊臣秀吉(1537–1598)が姫路を本格的な城に変えた。秀吉は 1 世紀以上も続いた戦国時代を経て、天下を再統一した。彼は 1580 年、播磨地方の周囲を支配下におさめ、そして後に赤松氏の古い砦の場所に 3 階建ての天守閣と城郭を建てた。

## 「白鷺城」の誕生

池田輝政(1565–1613)が 1600 年に姫路の君主になったとき秀吉の 3 階建ての天守閣を我々が今日見ることができる建造物に取り替えた。より小さな 3 つの櫓を隣り合わせで持つ白壁で 5 階建ての天守閣である。彼は城の敷地の全面的な改修も行い、たくさんの新しい石の壁を付け加えた。彼は本来の城の周辺にある要塞化した町を拡張し、地域全体を堀と土の堤防で囲んだ。彼はさらに町を飾磨津の南の港とつなぐための運河も建設し、海から姫路へのサプライルートをより容易にした。

## 行政の中心としての姫路

いくつかの建造物が 1617 年から 1631 年まで姫路の君主であった本多忠政(1575–1631)の下で西の丸に加えられた。忠政は自分の相続人である忠刻(1596–1626)に宮殿を建てた。そして宮殿内に長い要塞化された回廊を建て、それは城の防衛を強化し居住区域を拡張することになった。彼は自分自身の邸宅と仕事部屋を要塞の隣にある手狭な城郭からより広々した三の丸へ移した。その改造は姫路の移り変わる役割を反映し、日本の長い戦国時代に終わりを告げ、城の軍のための施設としての性格は弱まり、地方行政の中心として性格が強くなった。